



2023 年 5 月 16 日

Audi TT、誕生 25 周年を祝う：時代を超越したデザインアイコン

- 1995 年にクーペのスタディモデルとして発表された TT は、1998 年に量産を開始
- バウハウスにヒントを得たデザイン。初代 TT は Coupé と Roadster 合わせて約 27 万台を生産
- アウディ デザイナー ヴェンツェル：「Audi TT は走る彫刻作品」

（ドイツ本国発表資料）2023 年 5 月 2 日、インゴルシュタット：アウディは、Audi TT 3 世代 25 年の間に、自動車デザインの歴史を塗り替えました。1998 年にデビューして以来、このスポーツカーは、ドライビングの楽しさと明確なデザインランゲージにより、世界中の人々の共感を呼び起こしました。1999 年、Auto Europe は、その年に発売されたニューモデルのベストカーに Audi TT を選出しました。

1990 年代半ば、ラグジュアリーモデルの Audi A8 が発売され、ブランドのポジショニングを高めると同時に、モデルシリーズの名称が徐々に変更され、Audi 80 は Audi A4 に、Audi 100 は Audi A6 となりました。1994 年に導入された Audi A4 は、アウディの新しいデザインランゲージを具現した最初のモデルでした。続いて 1996 年には、プレミアムコンパクトモデル Audi A3 が導入され、1997 年には第 2 世代の Audi A6 が発売されました。新鮮かつ進歩的なデザインでアウディファンを拡大する中で、米国人デザイナー フリーマン トーマスは、当時のデザイン部門責任者であったペーター シュライヤーの指揮の下、純粋なスポーツカー Audi TT Coupé をデザインしました。アウディは、1995 年 9 月に開催された IAA（フランクフルトモーターショー）で、熱狂的な来場者に向けて、このスタディモデルを発表しました。モデル名の TT は、1907 年初回開催の世界で最も古いモータースポーツイベントの 1 つであり、NSU と DKW が大きな成功を収めた伝説的なモーターサイクルレース、マン島 TT レースを連想させます。さらに TT という名称は、1960 年代のスポーティなモデル NSU TT も思い起こさせます。Audi TT Coupé が、その当時のアウディのネーミングのルールを意図的に採用しなかったことは、このモデルの斬新さを強調することが目的でした。

デザイナーのヴェンツェル：「Audi TT は、すべての形状に明確な機能を備えている」

1995 年 12 月、Audi TT Coupé の量産が決定されました。アウディのエクステリアデザイナーで、スタディモデルから市販モデルへの移行に携わったトルステン ヴェンツェルは、次のように回想しています。「市販モデルへの移行に際しては、プロポーションを含む数多くの技術仕様を細かく調整する必要がありました。市販モデルが発表されたとき、メディア各社は、スタディモデルからデザインが大きく変更されていないことを高く評価しました。これは私たちデザイナーにとって、最高の賛辞となりました」。最も顕著なデザイン変更は、リアサイドウィンドウが設定されたことであり、モデルの印象が長くなり、スポーツカーとしてダイナミックに見えるようになりました。ヴェンツェルにとって、Audi TT は「最高品質のボディとラインを備えた走る彫刻作品」そのものでした。「Audi TT のボディは、1 つの大きな塊から削り出されたように見え、従来のバンパーオーバーハングのないフロントエンドが、そのクリアなフォルムを強調しています」。と彼は説明しています。

Audi TT Coupé 独自のシルエットを形成しているもう一つのデザイン要素は、円です。ヴェンツェルによると、円は「完璧なグラフィック形状」とであると言います。このスポーツカーのエクステリアおよびインテリア デザインには、数多くの円形の要素が採用されています。バウハウスにヒントを得た Audi TT のすべてのラインには目的があり、すべての形状には機能があります。「アウディ デザインは、常に“レス・イズ・モア (less is more)”の哲学に従っています。Audi TT Coupé のデザインでは、本質的なところまで



削減することによって、このクルマ特有のユニークなキャラクターを引き出しています。これは、私たちデザイナーにとって大きなチャレンジであり、特別な仕事でした」。

1 年に 2 つの記念日：アウディ ハンガリーと Audi TT、同時に誕生を祝う

1998 年、Audi TT Coupé の生産が開始。その 1 年後に TT Roadster を導入しました。TT スタディモデルや 1996 年に発売された Audi A3 と同様に、このスポーツカーは、フォルクスワーゲン Golf IV の横置きエンジンプラットフォームをベースにしていました。

TT は、当初からハンガリーの Audi Hungaria Motor Kft（アウディ ハンガリー）で生産されました。TT のボディは AUDI AG 本社工場 インゴルシュタットで塗装され、一晩をかけてアウディ ハンガリーの拠点ジェールまで鉄道で運ばれ、そこで最終組み立てが行われました。インゴルシュタットとジェールの 2 つの拠点で生産するという方式は、当時の自動車業界ではユニークなものでした。AUDI AG の完全子会社であるアウディ ハンガリーは 2023 年に 30 周年を迎えます。1993 年 2 月に設立されたアウディ ハンガリーは、当初はエンジンのみを製造する工場でしたが、1998 年にインゴルシュタット工場と連携して Audi TT の組み立てに着手。そして 2013 年、同社は本格的な自動車工場へと進化しました。アウディ ハンガリーは創業以来、4,300 万基以上のエンジンと 200 万台近くの車両を製造してきました。

第 1 世代の Audi TT は、幅広いエンジンラインナップを備えて、当然のことながら非常にスポーティなモデルでした。たとえば、初代 TT には、150~225PS の最高出力を発生する 4 気筒ターボエンジンに加え、250PS を発生する V6 エンジンが搭載されていました。エンジンラインナップのハイライトは、240PS に強化された Audi TT quattro Sport の 4 気筒エンジンで、1,168 台が販売されました。初代 TT のお客様には、数多くのオプション装備の選択肢が提供されました。パパイアオレンジやノガロブルーといった専用カラーに加え、お客様は工場オプションの特別なアクセサリを装備することができました。例えば、Audi TT Roadster のレザーシートに設定された「ベースボールグローブ」デザインは、当初はショーモデル用に開発されたものでしたが、市販モデルにも採用されました。2006 年半ばまでの 8 年間で、17 万 8,765 台の初代 Audi TT Coupé (Type 8N) が生産され、1999 年から 2006 年の間には、9 万 733 台の初代 Audi TT Roadster が生産されました。

TT ラインナップが拡大され、第 2 世代には RS バージョンが登場

第 2 世代の TT で、デザイナーは「シンプルで本質的なデザインの追求」を基本的なデザイン要素として継承しました。この原則は、例えば、エクステリアのミニマルなデザインや洗練されたドライバー志向のインテリアに明確に表現されています。丸みを帯びたフォルムと円形のモチーフは、典型的な TT のデザインであり、エクステリアとインテリアのデザインを統一する要素でもありました。その一例が、燃料タンクキャップ、円形エアベント、ギアシフトの縁取り、特徴的なシフトノブなどです。

この第 2 世代の TT は、Coupé が 2006 年、Roadster が 2007 年に発売され、第 2 世代の Audi A3 のプラットフォームをベースにしていました。このモデルでは、アウディマグネティックライドを備えたアダプティブダンパーが初めて採用されました。オプション設定されたこのテクノロジーは、ショックアブソーバーを路面状況とドライバーの運転スタイルに合わせて、連続的に可変することが可能です。2008 年には、272PS を発生する 2 リッターターボエンジンを搭載したスポーツモデル TTS が発売され、その 1 年後には 340PS を発生する 2.5 リッター 5 気筒ターボエンジンを搭載した TT RS と、出力を 360PS に引き上げた Audi TT RS plus が発売されました。また 2008 年には、TT 2.0 TDI quattro を発売。これは、世界で初めてディーゼルエンジンを搭載した市販スポーツカーとなりました。



軽量化が施された第3世代のAudi TTは2014年に発売されました。2.0 TFSIエンジンとマニュアルトランスミッションを搭載したTT Coupéの重量はわずか1,230 kgで、先代モデルよりも最大50kg軽量化されました。新型TTおよびTT RSの開発にあたりデザイナーは、1998年に登場した初代TTの特徴的なラインを現代的に再解釈しました。典型的な丸い燃料タンクキャップは、世代を超えて受け継がれました。このモデルでは、数多くの詳細なプロフィールも、第1世代のクラシックなデザインを意図的に想起させるように開発されました。技術的に第3世代のTTはいくつかの革新をもたらしました。例えば、このモデルでは、アナログメーターとMMIモニターに代わり、非常に精細で多用途なディスプレイを備えたフルデジタルメーター、オーディオバーチャルコックピットを初めて採用しました。2016年、Audi TT RSの発売とともに自動車のライティング技術の新時代が始まりました。オーディオは、このTT RSのテールライトにOLED（有機発光ダイオード）を初めて採用しました。エンジンラインナップも、発売当初の最上位モデルは310PSを発生する2リッターターボエンジンを搭載したAudi TTSから始まり、2016年には、オーディオが誇る最もエモーショナルな2.5リッター5気筒ターボエンジンを搭載したTT RSまで印象的なモデルが続きました。400PSを発揮するこのエンジンはスポーティなサウンドを特徴とし、「インターナショナル エンジン オブ ザ イヤー」を9回連続で受賞しています。オーディオは、2023年のアニバーサリーイヤーを祝うために、Audi TTの四半世紀にわたるデザインとテクノロジーのハイライトを結集し、ナルドグレーを纏った100台限定の特別なAudi TT RS Coupé iconic editionモデルを発表しています。

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。

フォルクスワーゲン グループ ジャパン株式会社
オーディオ ジャパン 広報部

オーディオ ジャパン プレスサイト
<http://www.audi-press.jp/>

報道関係者お問い合わせ：
<https://audi-press.jp/contact/>

お客様問い合わせ：
オーディオ コミュニケーション センター
0120 - 598106



オーディオ グループは、プレミアムおよびラグジュアリーセグメントの自動車およびオートバイのメーカーです。グループに属するオーディオ、ベントレー、ランボルギーニ、ドゥカティのブランドは、13カ国22か所で生産されています。オーディオとそのビジネスパートナーは、世界100以上の市場に存在しています。2022年、オーディオ グループは、161万台のオーディオ、15,174台のベントレー、9,233台のランボルギーニ、および61,562台のドゥカティを販売しました。2022会計年度において、オーディオ グループは総収益61.8億ユーロ、営業利益7.6億ユーロを達成しました。世界中で、オーディオ グループでは2022年に87,000人以上が働き、そのうち54,000人以上がドイツのAUDI AGで働いていました。魅力的なブランド、新しいモデル、革新的なモビリティサービスにより、グループは持続可能で個性的なプレミアムモビリティプロバイダーへの道を着実に歩んでいます。
